

# 二〇一七年度「後藤新平の会」

## 第11回後藤新平賞授賞式

本賞山本保博氏(東京大学名誉教授)

〔シンポジウム〕

## 後藤新平の世界認識と現代

100年を振り返る



小倉和夫(元外務省)  
加藤陽子(元外務省)  
羅井一徳(国史学比較学)  
ロー・タン(元駐日大使)  
【司会】橋本五郎

〔日程〕7月16日(日)授賞式11時開会  
シンポジウム13時開会(30分前開始)  
〔場所〕アルカディア市ヶ谷 私学会館  
〔定員〕200名(先着順)  
〔会費〕一般2000円 学生1000円(様式無料)  
\*都合は藤原書店内各店舗の金庫裏まで

## 第二七四回 新宿セミナー実況録

### 「出雲を原郷とする人々」刊行記念

### 全国「出雲」再発見の旅!

〔出演〕  
岡本雅幸(福岡県立大学准教授)  
佐野史郎(俳優)  
三浦佑之(千葉大学名誉教授)

〔日時〕7月1日(土)18時半開演(18時開場)  
〔会場〕紀伊國屋書店新宿本店4F  
〔入場料金〕一五〇〇円(全席指定)

\*お問合せ・お申し込みは紀伊國屋ホール  
Tel.03-3354-0141(10時~18時半)

## 出版随想

▼「清朝は中国ではない」、モンゴル帝国から世界史は始まる、など、挑発的な言葉で常識を根底から問い直してきた歴史家、岡田英弘氏が五月二十五日逝去された。享年八六。昨六月、数年をかけて刊行された『岡田英弘著作集』(全八巻)も完結し、完結後のシンポジウムでは元氣な姿で登壇された。

氏の学者人生は必ずしも平坦な道ではなかった。弱冠二十六歳で学士院賞を受賞されたが、真摯に学問を問う姿勢は、学界の中でも煙たがられ異端とみなされた。小社の『モンゴル帝国から大清帝国へ』(二〇一〇年)が初の学術書である。七十九歳の時だ。氏の特筆すべき研究は、何といつても世界的ユーラシア研究である。国際アルタイ学会に若い頃から参加し、多くの国

際的な学者と交流してきたことは大きな成果であった。

▼一昨春、中国国家主席習近平の側近中の側近、王岐山氏が、故青木昌彦氏やフランシス・フクヤマ氏の前で、「日本に岡田英弘という優れた歴史家が居る。岡田英弘とは……」と外国人記者らの前で講演した。そのニュースは、英語で世界にネットで流された。弟子のハーバード大教授のマーク・エリオット氏からも早速岡田氏に連絡があったと聴く。ところが、わが国の新聞や放送の報道は皆無。唯一、日経がベタ記事で報じたのみ。これには、正直云って呆れを通り越して、憤りの感を抱いた。中国への賛歌ではなく批判してきた日本の一学者を、当の中国が認め、世界に紹介している「事件を、なぜ日本は報道しないのか?」

▼二十一世紀は、「国際的な」対話の時代。各国間の文化交流を通して、相互理解を深めてゆく時である。「岡田英弘事件」は、格好の日中文化交流を深めてゆくチャンスだったかもしれない。その後、氏から何も聴いていないが、隣国があればだけ胸襟を開いた姿勢を見せているのだから。その事件の直後、北京の出版社から、氏の著作集や学術書の翻訳出版依頼が舞い込んだのは言うまでもない。その後も、台湾や上海、香港からも問い合わせが続いている。今われわれが立っている時間は、かつての隔たっていた空間が一挙に縮まった時だ。そのことを心して、一日一日を大切に生きよう。合掌(亮)

### ●藤原書店ブッククラブのご案内●

▼会員特典は、①本誌「機」を発行の都度ご送付/②小社への直接注文に限り小社商品購入時に10%のポイント還元/③送料のサービス。その他小社権限への優待等。詳細は小社営業部まで問い合わせ下さい。  
▼年会費二〇〇〇円。ご希望の方はその旨お書添えの上、左記口座まで(送金下さい)。  
振替 0160417013 藤原書店